

① 学習指導案

プログラム	No.11 「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全70時間)	とベシヨートムービー
学習のねらい	「コロナ禍で困っている戸部のまちのお店をPRし魅力を広めたい」という夢の実現に向けて、戸部のまちのお店を取材したり、取材で得た情報をもとに動画を製作したりする活動を通して、情報の精査や動画の構成に関して試行錯誤を繰り返し、戸部のまちのお店の魅力や情報発信の奥深さに気付き、これからもまちの一員としてできることを探して創意工夫をしていこうとする。
学習内容	1 どんな総合にしたいか 2 PR動画って何だろう 3 取材をしよう 4 動画制作をしよう 5 動画でお店をPRしよう
参考資料 準備品 実施場所等	準備品：iPad、iMovie(動画編集アプリ) 実施場所等：地域のお店6店舗

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
10	<p>どんな総合にしたいか</p> <p>○今年の総合で大切にしたいことを話し合う</p> <p>○まちの課題を知るためにアンケート調査を行う</p> <p>○PR動画の学習計画を立てる</p>	<p>・年間を通して、本単元で確認した活動の目的をいつでも確認できるように、掲示物を残す。</p> <p>・アンケート調査の結果を正確に捉え、1年間取り組む活動を選択できるように、候補に上がった活動の良さをそれぞれ整理する。</p> <p>・次単元で動画制作の手順をプロに教えてもらった後、学習計画を見直すことができるように、曖昧な計画には「？」を貼っておく。</p>	<p>まちの方が困っていることを正確に捉え、自分たちができることを考えようとしている。</p>
10	<p>PR動画ってなんだろう</p> <p>○実際にプロが製作した動画を視聴する</p> <p>○動画製作の手順や大切なことを、プロのKさんに聞く</p>	<p>・地域PR動画の制作という目標に合った動画を精選し、提示する。</p> <p>・プロの方と出会うことができるよう、協力していただける会社が制作している動画も提示する。</p> <p>・「試行錯誤」などキーワードを出してもらおうように事前に打ち合わせをする。</p>	<p>プロの方の意見を聞き、活動計画などを改善しようとしている。</p>

20	取材をしよう ○お店について知っていることを出し合う ○お店に行き、写真撮影やインタビューをする ○構成シートを書いたり、見合ったりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・板書では情報の性質ごとに分類する。事実と感想を区別して話すよう声かけしたりする。 ・プロの方に教わった取材時のマナーを事前に確認し、失礼のない取材を心がけられるようにする。 ・動画に入れるべき情報を円滑に選択できるように、ピラミッドチャートを用意する。 	他チームの構成シートを、根拠をもって客観的に評価できる。
20	動画制作をしよう ○ディレクター、編集など役割を分担する。 ○撮影や動画編集をする。 ○プロの方に評価を頂き、改善する。	<ul style="list-style-type: none"> ・iMovieで編集をしながらでも、すぐにiPadで構成シートを確認できるように、データを準備しておく。 ・プロの方から頂いた改善点を、直接伝えるものと、ヒントを出して児童に考えさせるものを精選して声かけをする。 	制作した動画を見合ったり感想を伝え合ったりして、より良い動画にしようとする。
10	動画でお店をPRしよう ○全校に向けて動画を発表したり、映像制作会社の方にみってもらったりする。 ○これまでの活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・見てもらった人からもらうアンケートを制作ときは、単元の目標に立ち戻って設問を作るように声かけする。 ・できたことや改善点をPMIで整理し、次年度に繋がられるようにする。 	自分の成長を捉え直して、今後の活動に生かそうとしている。

※「②事業実施報告書」として添付した本校独自様式の学習指導案から、変更した部分もあります。

② 事業実施報告書

添付した本校独自様式の学習指導案で代えさせていただきます。

戸部ショートムービー

5年1組 30名 瀬古 優星

1 単元の構想

(1) 子どもの思いと教師の願い

今年度の総合を決めるにあたって、どんな力をつけたいのかを話し合ったところ、まず多くの児童から、「高学年としての力」や「協力する力」、「話し合う力」といった言葉が出てきた。このことから5年1組の児童は、高学年になったということを強く意識しており、その上で友達と上手に関わっていききたいという意識があることが分かった。これまでの総合を振り返った際には、多くの戸部のまちの方々に関わって頂いたということに気づき、「協力する力」の中に「まちの人と協力」という意味も強く芽生えてきたようだった。

ショートムービーとは、お店をPRする短い動画であり、限られた時間の中でより効果的にお店の魅力を伝える必要がある。そのために、念入りな取材や、伝えるべき情報の選び方、その順番などに工夫を加えられるようにしたい。また、調査活動を通して、まちのお店には自分たちの知らなかった多くの魅力や、働く人の隠された努力や思いがあることを知って欲しい。単元の終わりには、友達と協力してひとつの作品を作り上げた達成感や成長を感じたり、これからもまちの一員としてできることを探していこうという思いをもったりして欲しい。

(2) 学習材について

本単元の探究課題：まちのお店のPR動画づくりを通して見つめ直す、まちや人の魅力・思い

学習対象	学習内容	期待する子どもの変容
・戸部のまちのお店、人 ＜地域＞	戸部のまちには、様々な工夫を凝らしているお店がたくさんあり、思いをもって働いている人がいるということ。自分たちも地域の一員として、まちのお店の良さを大切にしながら、今後も関わっていく必要があるということ。	まちのお店や人には、こんなにたくさん魅力があったんだな。様々な魅力を知ることが出来てよかった。少しでもまちの人のためになれてよかった。これからも関わっていききたい。
・動画発信 ＜情報＞ ・PR動画 ＜文化＞	限られた尺で魅力をPRする動画を制作するには、情報を精査したり、効果的な表現を検討したりする必要があるということ。製作者の意図次第で、情報の伝わり方は大きく変化し、発信者には責任が伴うということ。	魅力がたくさんあったけど、より魅力が伝わる情報を優先して選ぶことが大切だね。情報の選び方で、動画の印象が変わるんだね。伝えたいことが決まっても、映し方や編集の仕方によって、伝わり方が変わるんだね。
・動画制作会社のKさん ＜キャリア＞	構成や音声など多くのことを計算して動画制作をしている人がいるということ。そのことに熱意や思いをもって働いている人がいるということ。自分たちの成長のために、協力してくれる方がいるということ。	プロの方は、仕事に熱い思いをもって、動画製作では色々なことに目を向けていてかっこいいな。自分たちもプロの方のような編集をしてみたい。

(3) 単元目標

「コロナ禍で困っている戸部のまちのお店をPRし魅力を広めたい」という夢の実現に向けて、戸部の町のお店を取材したり、取材で得た情報をもとに動画を製作したりする活動を通して、情報の精査や動画の構成に関して試行錯誤を繰り返し、戸部のまちのお店の魅力や情報発信の奥深さに気づき、これからもまちの一員としてできることを探して創意工夫をしていこうとする。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・まちのお店には多くの魅力や、働く人の思いや隠された努力があることに気付いている。 ・必要な情報を効果的に得るために、事前にインタビュー内容を準備して、フィールドワークをしている。 ・効果的にお店の魅力を発信するために、情報の精査や構成、工夫が必要であることに気付いている。 ・より効果的なPR動画を制作できたのは、取材方法の検討や、情報の順序や表現方法の工夫など、探究的な学習の成果であることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりお店の魅力が伝わるように、必要な取材や動画編集等、具体的な活動の見通しをもっている。 ・まちのお店の魅力やお店の人の努力を知るために取材方法を検討し、情報を集めている。 ・お店の人の思いや自分が感じた魅力が伝わるように、情報を比較したり、優先順位をつけたりできる。 ・よりお店の魅力が伝わるように、情報の順序や表現方法を工夫し、コンテや動画を製作している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分担や協力をして、取材や動画撮影、編集をしようとする。 ・製作した動画を見合ったり感想を伝え合ったりして、より良い動画にしようとする。 ・見る人やお店の人の立場になって動画制作を進めたり、友達と協力して難しいことに挑戦したりすることができたという達成感や成長を感じている。 ・まちのお店の魅力に気づき、これからもそれらを大切にしながら関わっていこうとしている。

(5) 単元の学習活動の流れ

小単元の学習課題・学習活動・期待する姿容!

【学びどころ】

●関連する教科等

I どんな総合にしたいか ⑩

- 今年の総合で大切にしたいことを話し合う。
- まちの課題を知るためにアンケート調査を行う。
- PR 動画の学習計画を立てる。

今年の総合では、「高学年として」や「協力」をキーワードにしたい。今までまちの人に色々教わってきた。コロナで困っていると思うし、今度はまちの人に「協力」したい。まちに対してできることって何だろう。アンケートでまちの思いを確認してみたら、ほとんどのお店がお客さんが減っていると感じていることが分かった。動画を作って宣伝しよう。

●「社会への奉仕」(道徳)

まちの課題について知り、自分たちにできることは何か考え、人のために役立つとうとする態度を育てる。

【小単元Iの学びどころ】

「まちのためにできることをしたい」という思いのもとアンケート調査を行い、まちのお店からお客さんが減っていることに気づき、「コロナ禍で困っている戸部のまちのお店をPRし魅力を広めたい」という思いをもつ。

<地域>

II PR動画って何だろう ⑩

- 実際にプロが製作したPR動画を視聴する。
 - 動画製作の手順や大切なことを、プロのKさんに聞く。
- 実際の地域PR動画には色々な工夫があったけど、どう作ったらいのかまでは見ただけでは分からなかった。プロのKさんに聞いてみて、取材の大切さや編集時のテロップの位置など多くの工夫や、動画製作に対する熱い思いがあると知ることができた。K5年1組のために色々教えてくれてすごく優しいと思った。Kさんみたいな動画製作をできるようになりたいな。取材が大切だと分かったから、まずは取材をして、自分たちもお店の魅力をもっと知ろう。

【小単元IIの学びどころ】

プロの動画を見たり、Kさんの話を聞いたりして、PR動画の製作には、何をいばん伝えたいのかというテーマや綿密な取材や情報の精査が大切であることに気付く。

<文化>

III 取材をしよう ⑩

※本小単元

取材にもマナーがあって、やっぱりマナーって大切だなと感じた。自分が知りたい情報と、プロが意識している情報が違ったので、取材が難しかった。お店の人たちは、レイアウトや商品の見た目など、今まで気が付かなかった細かいことにも気を付けて仕事をしていることが分かった。これだけ思いをもって工夫しているなんてカッコいい。このことがしっかり伝わるPR動画にしたい。コンテづくりでは、伝えたいことがたくさんあったから、載せない情報を選ぶことが難しかった。自信のある構成を考えることが出来たから、とうとう次は撮影だ。

●「きいて、きいて、きいてみよう」(国語)

必要な情報を聞くために、どのような質問をするべきか考え、話し手が伝えたい内容を正確にまとめる。

【小単元IIIの学びどころ】

戸部のまちには様々な工夫を凝らしているお店がたくさんあり、思いをもって働いている人がいるということや、自分たちは、まちのお店と関わり合っているということを知る。

<地域>

●「情報を伝える人々とわたしたち」(社会)

「情報」は、発信する側の意図によって伝わり方が大きく変わることを理解する。

IV 動画製作をしよう ⑩

- ディレクター、編集など役割を分担する。
- 分担して、撮影や動画編集をする。
- Kさんに評価を頂いて改善する。

伝えたいことに気を付けて動画を作るのって大変だな。お店の人はここを伝えて欲しいと言っていたから、この情報は目立たせないね。Kさんからもらったアドバイスを生かすのが難しかったな。何回も修正したから大変だったけど、良いものができて自信をもてた。

【小単元IVの学びどころ①】

限られた尺で魅力をPRする動画を制作するには、情報を精査したり、順番を工夫したりする必要があるということや、制作者の意図次第で、情報の伝わり方は大きく変化し、発信者には責任が伴うということを知る。

<情報>

【小単元IVの学びどころ②】

多くのことを工夫して動画を編集しているKさんの技術のすばらしさや、熱意をもって仕事に取り組んでいるということを知る。

<キャリア>

V 動画でお店をPRしよう ⑩

- 市役所などで動画を流してもらったり、お店の方に動画を見て頂いたりする。
- これまでの活動を振り返る。

色々な人にお店の魅力が伝わってよかった。お店の人にも直接見てもらって、伝えて欲しい魅力がしっかり伝わっていると言って貰えて嬉しかった。試行錯誤したり、連携を取ったりすることが大変だったけど、やり切ることができて嬉しい。これからも、戸部のまちやまちのお店に対して自分から積極的に関わって生活していこう。

【小単元Vの学びどころ】

自分たちの探究的な活動を通して、まちやお店のすばらしさを伝えることができた達成感を得る。友達と意見を交換したことや、多くの方の協力を得て学習できたことを実感する。

<地域>

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>動画の内容が、「伝えたい」「ここがすごい」という児童の思いも入れつつ、しかしそれだけにならないよう、以下の手立てを打って学習を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none">・プロの方には第三者の目が大切というお話を頂き、お互いの構成シート（コンテ）や仮完成した動画を何度も見合うことができるように計画を立てた。・「流れが自然かどうか」や「外から中、抽象から具体になっているか」といったキーワードを設け、客観的評価を交えながらの話し合いをできるようにした。
<p>(2) 実施にあたり苦勞した点</p> <ul style="list-style-type: none">・上記の「流れが自然かどうか」という視点など、教師自信が線引きを明確にしきれていない要素も多くあり、話し合いが難しい場面があった。「〇〇人が自然と感じたらOK」など、明確な数字で判断できる基準が必要であった。・6店舗のお店の方と映像制作会社の方と、アポが必要な場面が年間で多くあり、コロナ禍でのスケジュール管理にはかなり苦勞した。ただ、店舗数を減らすと返って班の人数が多くなり、児童一人ひとりの作業量などが減ってしまい、バランスの調整が難しい。
<p>(3) 児童の反応</p> <p>初めは、動画制作を簡単に考えていた児童が多かったが、蓋を開けてみると取材・構成・撮影・編集とステップが多く、さらにその一つ一つの中にも沢山の留意点や頑張りどころがあり、思ったよりも大変で、だからこそ楽しかったと感じている様子であった。また、自分たちの思ったことだけでなく、お店の人の思いや客観的な評価を大切にして動画を制作してきた。その中で児童は、まちのお店のよさは、人によって捉え方に違いがあることに気づき、そのことをうまく動画に反映させることが大切と感じている様子であった。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>私がこのまちの教員として働くにあたり、このまちの温かさや明るさといった「よさ」を知れたことが何よりの収穫であった。今後もこのような学習を通して、地域との関わりをより深くしていきたいと感じた。また、児童と一緒に情報を収集することの難しさを痛感した。実態にもよるが、児童のもつ「伝えたい」「ここがすごい」という思いは、想像よりも感情面に依るところが大きく、根拠を整理する手立てを打つことに苦戦を強いられた。今後似た学習を指導する際は、「他と違うから」「数字が大きいから」といった、「すごい」の根拠も明確にして事前に指導していきたい。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <p>年間を見通して学習を進めることが難しかった。感染症拡大防止の観点から、取材に出向く機会や、プロの方に来て頂く機会を調整しきれなかった期間もあり、スケジュールに追われ続けてしまった。今後は、蔓延防止措置期間中でもできることなどを整理し、プランを複数用意して総合の学習に取り組みたい。</p>